

## 自己評価報告書

平成 23年 5月 9日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2008～2011

課題番号：20243032

研究課題名(和文) 美術創作プロセスの解明に基づく創造性教育支援

研究課題名(英文) Psychological study on artistic creative process

研究代表者

岡田 猛 (OKADA TAKESHI)

東京大学・大学院情報学環・教授

研究者番号：70281061

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・教育心理学

キーワード：創造性、熟達化、美術創作、認知過程、創造性支援

## 1. 研究計画の概要

本研究の主目的は、美術家の創作プロセスに関する心理学的検討を通じ、芸術創造の認知モデルを構築することである。美術創作プロセスの解明は、これまで科学的な検討がほとんど行われていなかった。そのため、その実証的な検討は、学術的にも教育的にも大きな意義を持っていると思われる。本研究プロジェクトでは、そのような目的の達成のために、絵画や立体、写真などのメディアを用いて創作活動を行っている現代美術家を対象に、インタビューや心理実験などの多様な手法を組み合わせる「マルチメソッド」を用いて、研究を行っている。

## 2. 研究の進捗状況

これまで現代美術家を対象にインタビュー、美術創作プロセスのビデオ記録、眼球運動データの収集等を行った。

## 3. 現在までの達成度

この研究は現在も継続中であるため、まだ明確な結論は出ていないが、インタビューデータに関する現在の段階での分析では、若手の創作活動の変遷の仕方は、熟達者の創作活動の変遷の仕方と大枠では一致しているものの、熟達化プロセスの細部においては異なるパターンを取る可能性があることが示唆されている。この特徴は、現代美術の時代背景や美術系大学のカリキュラムの変化などに基づくコホートの効果を示唆している可能性がある。また、創作活動中の眼球運動データは熟達した

美術家を対象に行い、現在の段階の分析では、描画のプロセスには質的に異なる3つのフェイズがあることが示唆されている。

研究成果の一部は後述の英文論文や著作、講演、シンポジウム、美術展覧会等で発表された。

## 4. 今後の研究の推進方策

研究プロジェクトは継続中であり、今年度も美術家や学生を対象にデータを収集し、分析を行う予定である。さらには、本研究プロジェクトの知見に基づき、美術家養成のための創造性支援に関して提案を行う予定である。

## 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

① Okada, T., Yokochi, S., Ishibashi, K., & Ueda, K. Analogical modification in the creation of contemporary art. *Cognitive Systems Research*, 10, 189-203. (2009). 査読有り

[学会発表等] (計2件)

① "Creative process of Japanese contemporary artists" Special colloquium talk. Department of Fine Arts, University of Nevada, Las Vegas, USA., 2010, 3, 10.

② "Putting creativity on display: An art exhibition from the standpoint of cognitive science." Special Colloquium

talk. Learning Research and Development Center, University of Pittsburgh, USA., 2010, 3, 16.

〔図書〕(計3件)

①岡田猛・横地早和子 (2010). 科学と芸術における創造 楠見孝(編) 思考と言語 現代の認知心理学第3巻. 161-188, 北大路書房

②横地早和子・岡田猛 (2010). 美術の創造. 海保博之・北村英哉・竹村和久(編) 感情と思考の科学事典. 362-363, 朝倉書店

③横地早和子・岡田猛 (印刷中). アートにかかわるエキスパート: 芸術家 金井壽宏・楠見孝(編) 実践知: エキスパートという知性 有斐閣

〔産業財産権〕

○出願状況 (計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

○取得状況 (計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕

①東京大学駒場博物館特別展「behind the seen アートの舞台裏」共同企画者 2008年10月11日 - 12月7日

②シンポジウム「behind the seen 熟達者の表現を支えるもの」共同企画者 2008年11月29日、東京大学駒場キャンパス

③東京大学教養学部公開講座「高校生のため

の金曜特別講座: behind the seen アートの舞台裏」話題提供者 2008年10月24日